

シンドウパルチョクでの支援物資配布

地球の表面の振動は地震として知られています。2015年4月25日、ゴルカ郡バルパクを震源地としたマグニチュード7.8の地震が発生しました。15日後の2015年5月12日、今度はシンドウパルチョクを震源地とした地震が発生しました。多くの人々が財産や命を失いました。破壊は、母親の保護を空しいものにし、女性は未亡人となり、子ども達は支援も無く孤児となり、全ての人々が惨めな生活を強いられています。今でも、余震が感じられます。

この悲惨な状況にあって、私たちの国を再建するために、まずネパール人は、食糧、衣類、避難所を必要とする人々を生き延びさせなければなりません。人工の建築物は平らな台地になってしまいました。そこで、避難所を確保するため、ミランクラブジャパン／ネパールは、トタンシート、釘、鉄線、現金等の支援物資をドルカ支部の生徒と会員の中で被害にあった人に配布しました。

2015年6月19日、副理事長のアマル・ナラヤン・マリ、会員のチャーヤ・マリ、マノジュ・バハドゥル・シュレスタ、サヌ・ラジャ・ラジュカルニカール、ナレシュ・バイディア、メヌカ・マナングール、コーディネーターのラミタ・マハルジャン、アシスタントコーディネーターのスジナ・バジュラチャルヤ、ドルカ、シンドウパルチョク、ラメチャプのコーディネーターのブペンドラ・クマル・パクリンが、シンドウパルチョクの全会員・生徒に対し、トタンシート、釘、鉄線を配布しました。上記の8人は、シンドウパルチョクへ一日がかりで行き、コーディネーターのブペンドラは2015年6月17日に行きました。

ミランクラブネパールの会員である上記の8人は、早朝午前6時にパジェロで出発し、午前10時30分頃シンドウパルチョクにつきました。それから、私たちは徒歩で2時間ほど、シンドウパルチョク郡チャウタラの全会員の自宅を訪問しました。エンジンの問題が起り、私たちがカトマンズに到着したのは午後11:50頃でした。大きな建物が平らな地面になっていました。地震は、物質および人間の両面に被害を与えました。

人々は、その日暮らしの状況にあり、家を建てるトタンシート、釘、鉄線を購入するお金もありません。おそらく、トタンシートは不足していますが、かれらは何とかして突然の出来事に対する救済を得ることができました。トタンシート、釘、鉄線で作られた耐久性のある家屋は、ネパールにおける主要な避難所になります。

ミランクラブジャパン／ネパールからトタンシートを支給された人々は、神の祝福を感じ、生きる希望を感じることができました。彼らは「政府ですら、家を再建するためのこのような物資を支援してくれないのに、ミランクラブネパール／ジャパンはしてくれた。この支援は悲惨な状況にあって幸福をもたらしてくれた」と言いました。ミランクラブネパールのドルカ支部の全ての会員から、ミランクラブネパール／ジャパンに対し感謝が述べられました。

ミランクラブネパールは、シンドウパルチョク支部の25名の生徒と7名の関係者にトタ

ンシート、釘、鉄線を配布しました。私たちは、地震後残された使い古しの資材を用いて耐久性のある家屋を作れるよう、各生徒に 12 枚（9 フィート、8 フィート）のトタンシートを供給しました。それは一つの家屋に 2 部屋作れるものです。



プラミラ・シュレスタの家



ミランクラブネパール会員のリタ・シュレスタの家



地震後のチャウタラバザラ